

平成26年度 全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技 第67回全国高等学校バスケットボール選手権大会

(男)4回戦

試合日: 2014/08/05
開始時刻: 15:00~
会場: 船橋市総合体育館
コート: Mコート
試合順: 第4試合(男)4回戦

Team A		Team B
福岡大大濠	75	前橋育英
(福岡県)	21 - 15 18 - 13 16 - 13 20 - 7	(群馬県)
	48	

TeamA(福岡大大濠)

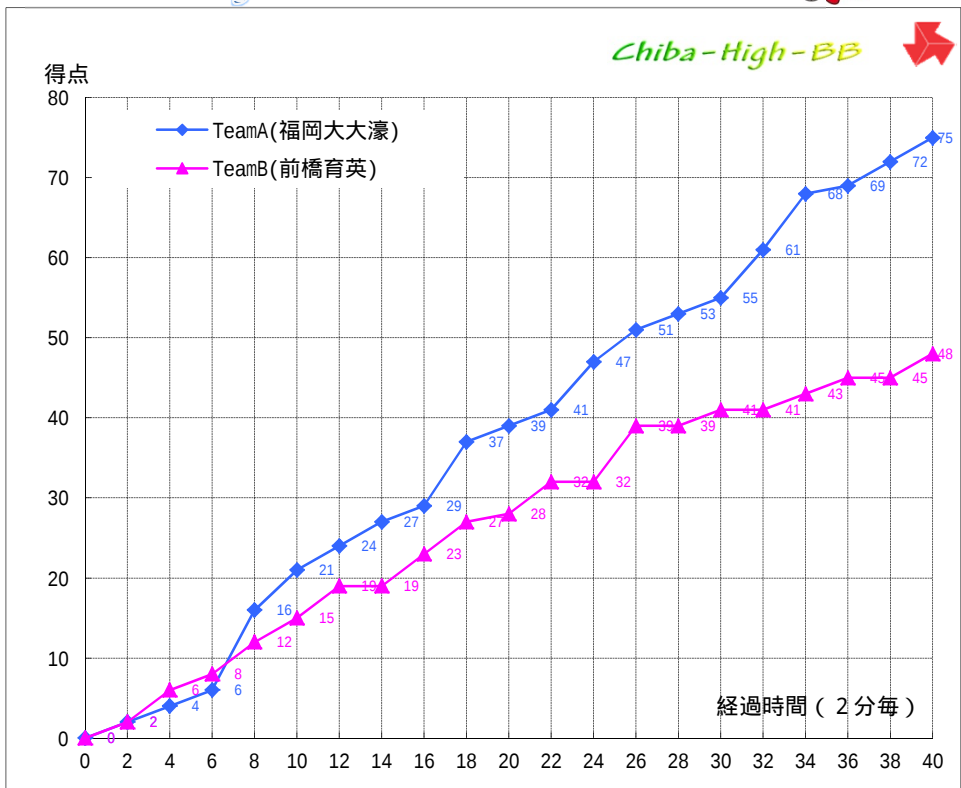
No	PT	選手名	得点	3rd	2nd	Free	反則	リバウンド			アシスト	ブロックショット	ターンオーバー
				成	成	成		off	def	計			
4		鳥羽 陽介	9	1	3	0	1	1	6	7	3	1	4
5	○	山口 礼継	3	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
6	○	中村 太地	9	1	3	0	1	0	0	0	1	0	0
7	○	松尾 啓輔	0	0	0	0	0	1	3	4	0	0	1
8		牧 隼利	8	2	1	0	1	1	0	1	0	0	3
9		増田 啓介	15	0	5	5	2	1	7	8	3	3	4
10	○	藤井 裕太	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11	○	鍵富 太雅	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0
12	○	安藤 琢郎	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0
13		津山 尚大	18	2	5	2	1	1	3	4	3	1	3
14	○	山内 康平	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
15		野口 夏来	13	0	5	3	0	1	9	10	0	1	0
16	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
17	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
18	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Team / Coach:							0	3	11	14			0
合計			75	7	22	10	7	10	40	50	10	6	16

TeamB(前橋育英)

No	PT	選手名	得点	3rd	2nd	Free	反則	リバウンド			アシスト	ブロックショット	ターンオーバー
				成	成	成		off	def	計			
4		久岡 幸太郎	7	1	2	0	0	0	1	1	3	0	5
5		田中 亮多	4	0	1	2	5	3	1	4	1	0	1
6		熊谷 隼斗	4	0	2	0	3	2	4	6	0	0	2
7	○	嶋田 正治	6	0	3	0	2	5	7	12	0	0	1
8	○	木嶋 翔	5	0	2	1	0	0	2	2	0	1	0
9		熊谷 航	18	1	7	1	2	1	3	4	3	1	3
10		酒井 達也	4	0	2	0	3	1	0	1	1	0	2
11	○	水尻 真世	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
12	○	櫻井 大暉	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
13	○	直嶋 大地	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
14	○	金井 輝	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15	○	鎌田 莒之介	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0
16	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
17	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
18	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Team / Coach:							0	1	13	14			0
合計			48	2	19	4	17	14	31	45	8	3	14

TO/CK/SS 千葉県高体連バスケットボール専門部所属高校バスケットボール部

InterHighSchool 2014 in Chiba 05M4



タイムアウト

	前半(1-2Q)リフト		後半(3-4Q)リフト		延1	延2	延3	延4
TeamA	15:47	19:07	26:05	-	-			
TeamB	7:46	14:26	23:25	31:16	-			

【戦評】

大会も4日目をむかえベスト8が出揃うなかで、唯一のAシード福大大濠と、地元千葉県代表の市立船橋を激戦の果てに下した前橋育英の一戦。試合は両者オーソドックスなハーフコートマンツーマンで守るも、互いにシュートが入らない重苦しい展開が続く開始3分でスコアは2対2。その後、福大大濠は#15のインサイドを中心に、前橋育英はアウトサイドからのドライブインで加点していくが徐々に福大大濠が引き離していく。第2P、または序盤重苦しい展開が続くが、5分を過ぎた頃に福大大濠がオフェンスのペースを上げると前橋育英も一歩も引かずに試合は乱打戦に。前橋育英は#9を起点に得点を重ねるが、福大大濠は#8、#13が2本ずつ3Pを決め、前半を終了時にはリードを11点に広げる。第3P、福大大濠がゾーンディフェンスに切り替えると前橋育英はこれを攻めあぐね苦しい展開に。しかし、最早ここまでかと思われた場面でも#9、#8の3連続フィールドゴールで一気に追いつき驚異的な粘りを見せる。前橋育英は福大大濠のタイムアウト明けからディフェンスラインを押し上げ追撃を狙うが、ここでインサイドの要である#5が痛恨の4ファール。反撃の芽を失ってしまう。一方、福大大濠は強固なディフェンスからの速攻やインサイドで着実に加点し手堅くリードを広げていく。第4P、前橋育英は3Pを多投するもことごとくリングに嫌われ万事休す。75対48で九州大会覇者、福大大濠に凱歌が上がった。

審判	岩木 太郎 / 柏原 琢磨 /	戦評	五十畑 貴生
千葉県高体連バスケットボール専門部			